《ロジックモデル》

番号	具体的な施策（アウトプット）	
1	小児医療に関する協議会等の開催	
2	難治・慢性疾患、重症心身障害など高度専門的な小児医療を担う医療機関の明確化	
	指標	小児専門医療を担う医療機関数
3	小児科を専門としない医師に対する小児救急の講習	
4	救命救急センターを核とした4ブロック化の推進	
5	二次救急医療を維持するため、効率的に小児科医師を配置することの検討	
6	ブロック（または二次保健医療圏）の関係機関で構成する検討会の開催	
7	ブロック（または二次保健医療圏）の関係機関で構成する検討会の開催	
8	小児重症患者の集中治療体制の検討	
9	小児救急電話相談事業（＃8000）の活用	
10	かかりつけ医を持つことのメリットや医療機関の適正受診について啓発	
11	小児救急電話相談の利用促進について、フォーラムやイベント等の機会を捉えて啓発	
12	「医療ネット滋賀」の普及啓発	

番号	取組の方向性（中間アウトカム）	
1	県内において小児医療を受けることができている。	
	指標	小児医療に係わる医師数
		小児科を標ぼうする医療機関数
2	小児救急医療に関する圏域の見直しができ、小児科医の効率的な活用ができている。	
	指標	ブロック化の進捗
		小児救急搬送例における受入れ不可となった件数の割合
3	ブロック（または二次保健医療圏）での小児救急医療体制の連携協議ができている。	
	指標	小児傷病者における受入れ医療機関決定までの照会回数が4回以上の割合
4	急病時の対応等について健康相談・支援を実施可能な体制構築ができ、地域における医療機関の機能分担と連携ができている。	
	指標	搬送件数に占める軽症者の割合
		小児救急電話相談（＃8000）の応答率
5	保護者への啓発ができている	
	指標	年間受入小児患者数に占める入院患者数の割合（入院率）

番号	目指す姿（分野アウトカム）	
1	良質かつ適切な小児医療を受けることができる	
	指標	小児死亡数（自殺を除く）

《ロジックモデル》

番号		具体的な施策（アウトプット）
1		病院と地域の関係者との連携推進
	1-1	ハイリスク新生児への相談・支援
	1-2	小児在宅医療に関する地域資源の情報発信
2		小児在宅医療を担う人材育成・スキルアップ
	2-1	小児在宅医療体制整備事業（研修会）の実施
	2-2	小児在宅医療体制整備事業（周知啓発）の実施
3		小児在宅医療関係者間での顔の見える関係づくり、情報共有・連携推進の場の確保
	3-1	小児在宅医療体制整備事業（小児在宅委員会）の開催
4		小児ショートステイ・レスパイト受け入れ機関の拡充・連携推進
	4-1	ショートステイ・レスパイト協議会の開催
5		緊急時に身近な支援者から支援を受けられる体制整備
	5-1	身近なかかりつけ医の確保の推進
	5-2	ICTを活用した情報連携の推進
6		緩和ケアに関する県民・支援者の理解促進
7		疾患や生活に関する困りごとの相談対応の実施
	7-1	療育相談事業による相談対応
	7-2	小児慢性特定疾病おたずね票による相談対応
8		保育・教育・障害福祉・就労に関する支援の充実
	8-1	支援関係者の資質向上
	8-2	支援関係者によるネットワークの構築
		多職種連携をコーディネートする人材の活動の促進
9		当事者同士の交流の機会の確保
	9-1	交流会・啓発事業の開催
		慢性疾病児童等の家族支援の検討
10		移行期医療支援センターの設置
	10-1	移行期医療支援に関する情報収集・情報発信
	10-2	支援者向け研修会の実施
	10-3	支援者間のネットワークの構築
11		移行期医療支援コーディネーターによる支援
	11-1	患者・家族・関係機関からの相談対応・連絡調整
	11-2	成人移行に関する啓発・指導・助言
12		災害時要支援対象者の把握・情報共有
	12-1	小児慢性特定疾病おたずね票による対象者の把握
	12-2	市町および関係機関との情報共有
13		災害時要支援対象者の災害時の備えに関する支援
	13-1	対象者・関係者への啓発
	13-2	避難行動要支援者個別避難計画の作成支援
14		関係機関同士の連携の推進
	14-1	安否確認体制の構築
	14-2	災害の連絡調整におけるICT化の推進

番号		取組みの方向性（中間アウトカム）
1		身近な医療機関で外来・在宅・入院医療を円滑に受けられる
1		病院から在宅への移行について切れ目なく支援を受けられる
	指標	退院支援を受けた患者数（15歳未満）
	指標	退院支援を受けたNICU・GCU入院児の割合
	指標	ハイリスク妊産婦・新生児援助事業における、新生児の支援実施率
2		住み慣れた地域で療養生活のために必要な医療を受けられる
	指標	小児の訪問診療が可能な診療所の割合（小児可能数／訪問診療可能数）
	指標	小児の訪問看護が可能な事業所の割合（小児可能数／全事業所数）
	指標	小児のレスパイト・ショートステイが可能な施設数
3		病状急変時に医療機関等の連携のもと適切な支援を受けられる
	指標	身近なかかりつけ医が確保できないと回答した保護者の割合
	指標	専門医療機関とかかりつけ医の連携が難しいと回答した保護者の割合
4		身体状況に合わせた緩和ケアが受けられる
2		日常生活支援により成長発達・自立が促進される
5		身近に相談できる体制が整備されている
	指標	相談希望者のフォロー率
6		福祉・教育・就労について多職種連携のもと適切な支援が受けられる
	指標	2次医療圏域ごとの協議の場の設置
7		地域や関係機関と繋がり、家族に寄り添った支援が受けられる
	指標	同じ立場（同じような病気）の人と交流したり相談したりしたいが、その機会がないと回答した保護者の割合
	指標	きょうだいの育児、精神的ケアの時間がとれないと回答した保護者の割合
3		成人期を見据えた医療・自立支援を受けられる
8		小児科から成人科へ切れ目なく医療を提供できる体制が整備されている
	指標	成人後も医療が継続できている患者の割合
9		成人後に医療に関する自己管理・自己決定能力、ヘルスリテラシーを獲得できている
	指標	成人後も身近なかかりつけ医が確保できている割合
4		災害等発生時も療養生活が継続できる
10		発災時に安全を確保するために必要な対応を取ることができる
	指標	終日在宅人工呼吸器使用者のうち災害時の対応に関する計画作成済みの割合
11		発災後も多職種連携のもと継続して必要な医療を提供できる体制が整備されている
	指標	（再掲）終日在宅人工呼吸器使用者のうち災害時の対応に関する計画作成済みの割合

番号		目指す姿（最終アウトカム）
1		慢性疾病のある子どもおよびその家族が、必要な医療や支援を受けながら健やかに成長し、安心して住み慣れた地域で生活することができる
	指標	慢性疾患があっても安心して滋賀県で生活することができると思う親の割合（おたずね票）